

町医者だより

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科

令和06年11月号

癌の悪液質

癌の患者に見られる痩せは悪液質と言われています。欧州緩和ケア共同研究（EPCRC）による2011年の診断基準では①過去6か月間に5パーセントを超える体重減少がある②体格指数（BMI）が20未満で2パーセントを超える体重減少がある③筋肉量や筋力が減少するサルコペニアで2パーセントを超える体重減少がある。これらのいずれかに当てはまるとがん悪液質と診断されます。がん細胞から分泌される炎症性サイトカインが、代謝の異常や食欲不振に関連していると考えられてきましたが近年、具体的な2つの機序が明らかになってきました。

グレリンとアナモレリン

グレリンは、日本の研究者により新たな成長ホルモン分泌促進物質としてヒトとラットの胃から発見された28アミノ酸残基よりなるペプチドで、脂肪酸修飾という特徴的な構造を有しています。グレリンは主として胃内分泌細胞で産生され、摂食亢進や体重増加、消化管機能調節などエネルギー代謝調節に重要な作用を持っています。アナモレリンはグレリン様作用薬で、多くの組織に分布するグレリン受容体であるGHS-R（成長ホルモン分泌促進受容体）1aを活性化することが知られています。特に脳下垂体で成長ホルモンの分泌を促進し、また視床下部に作用し食欲を亢進します。一般名であるアナモレリン（商品名はエドルミズ）は、がん悪液質の患者さんにおける体重および筋肉量の増加並びに食欲の増加効果があるとのことで我が国では2021年4月に販売が開始されています。しかしながら米国のFDA（食品医薬品局）は身体活動性の改善が乏しく効果が不十分と判断されて販売認可を受けることができませんでした。

抗成長分化因子-15（GDF-15）抗体

GDF-15はストレスで誘導され後脳（脳幹）に局在するGDF-15受容体GFRAL（グリアル細胞由来神経栄養因子[GDNF]ファミリー受容体α-like）を介して食欲不振が誘導されることがよく知られています。このGDF-15に対するモノクローナル抗体（ポンセグロマブponsegromab）が悪液質症状や体重減少の改善のみならず筋力の改善など身体活動レベルの改善も認めることが分かり今年の9月14日発刊のニューイングランド医学雑誌に掲載されました。